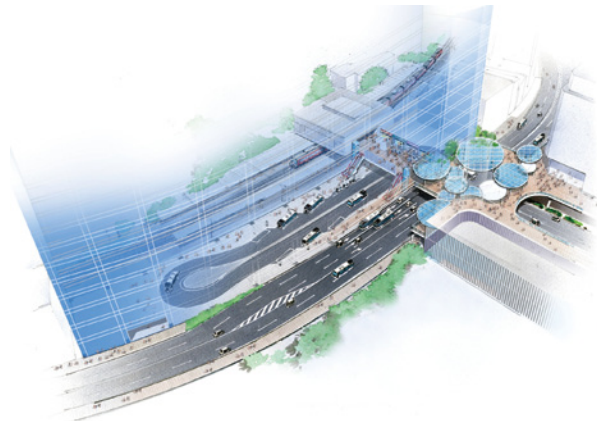


総務常任委員会

■「地域密着型バスタ」追浜駅

3月19日「追浜駅交通結節点整備事業計画」が発表されました。事業計画のポイントは、追浜駅交通結節点の将来の姿として、駅周辺に分散する11か所のバス停を集約すること、限られた駅前空間を有効に活用するため施設配置計画と官民の事業区分を役割分担しながら、官民連携による道路敷地の立体的な活用を図り、1階部分は交通ターミナルを整備、2階以上は交流機能、市街地拠点機能、防災機能を階層的に整備。

今後の事業の進め方として、まちづくりファンド、えき・まち・みちデザインセンター等の新たな推進体制を構築し、地元と連携しながら今後も引き続き、産官学連携の下で、未来を見据えた駅前拠点の創出に向けて取り組む予定です。



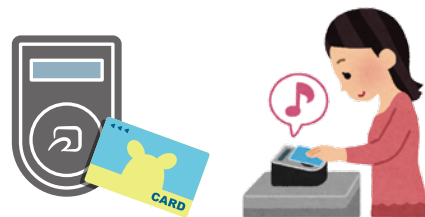
追浜駅前交通結節点イメージ図

生活環境常任委員会

■行政センター窓口をキャッシュレス化

住民票の写しや印鑑証明、戸籍証明書、税証明等の各種証明書の交付や申請にかかる手数料について、感染症拡大防止の観点から接触の機会を減らし、市民の皆様に安心してご利用いただくために、キャッシュレス決済を導入します。

現在、市役所1階の窓口サービス課で行っているキャッシュレス決済を各行政センターにも拡大します。



■小学校を拠点とした地域コミュニティを強化

横須賀らしさを生かした地域コミュニティを活性化します。小学校を地域のコミュニティ拠点として、子どもから高齢者まで様々な世代間の交流を促進し、地域の結びつきを強めます。

スクールコミュニティ事業は、汐入小学校、鷹取小学校、馬堀小学校の3校でモデル事業を行っていますが、新年度では、モデル校での活動実績を紹介しながら、全校に展開することを目指しています。



教育福祉常任委員会

行政手続の利便性向上が実現

引っ越しや結婚といったライフイベントにおける横須賀市での行政手続きについて、必要な手続きの種類や申請窓口、持ち物などを、スマートフォンから誰でも簡単に調べることができるナビゲーションサイト「手続ナビ」に、新たに児童手当、児童扶養手当及び小児医療費助成が加わる予定です。



虐待予防のための こども家庭総合支援拠点を設置

在宅支援中の家庭における重篤な虐待事例が少なくない実態を踏まえ、子どもに関する相談全般から、訪問による継続的なソーシャルワーク業務までを行うこども家庭総合支援拠点が設置されます。



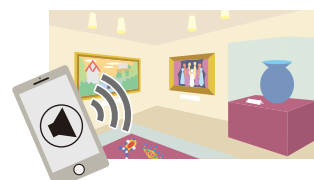
児童生徒1人1台パソコン授業が実現

市立学校の児童生徒において、必要な情報を適切な手段で収集・選択・創造・発信できるよう、情報活用能力や情報モラルの育成を推進するための「横須賀市 GIGA スクール構想」が推進され、中・ろう学校を皮切りに児童生徒「1人1台パソコン」を実現します。



スマホ美術館ガイドを導入

横須賀美術館内に Wi-Fi を整備し、アプリをダウンロードしたスマホで美術館ガイドが利用できる「ポケット学芸員」が導入されます。



都市整備常任委員会

■「猿島の新設トイレについて」

3月定例会は新年度予算を審査する重要な期間で、都市整備常任委員会でも予算組みに対して多くの質疑が交わされました。予算関連で多くの委員から指摘されたことは、猿島に新設する公衆トイレが2年間の継続工事で3億円もの費用が掛かるとの事で、その事業内容を詳細に確認しました。現在の猿島の入島者数は年間22万人を超え、女性用のトイレ不足が問題となっています。今回建設予定のものは男性用が大1・小1、女性用が6、多目的トイレが1つとされています。工事費用が高額になる理由として、浄化施設を設置し、地盤改良の必要や離島への資材運搬チャーター船等の費用が多く掛かり、2年間で約3億円もの費用を要するとの説明でした。

後日、総括質疑が行われ市長の所見では「驚き、その高額さに激怒した。内容は華美ではなく必要最小限のものであるが、これが理解してもらえるだろうか」と悩んだ上の決断だったことが分かりました。いずれにせよ、様々な工法を考え、少しでもコスト低減に努めるべきだと感じました。

